

- 問1 明治時代初期、東京の街並みには西洋風のレンガ造りの建物が立ち並び、路上を馬車が行き交うようになりました。また、洋服を着た人々が増え、牛肉を食べる習慣が広まるなど、生活様式が劇的に変化したこの社会現象を何といえますか。 (2021年 香川県公立入試 類似)
1. 学制 2. 廃藩置県 3. 富国強兵 4. 文明開化
-
- 問2 明治政府の収入の変化をたどると、1875年時点では政府収入の約8割以上を「地租」が占めていましたが、1900年に向けてその割合は徐々に低下していきました。このように初期の政府が地租を重視した理由と、その後の占有率低下の背景を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2015年 大分県公立入試 類似)
1. 不作の年に農民の負担を減らすため地租を廃止し、所得税に一本化したため。 2. 自由民権運動の要求を受け入れ、地租を全国一律で免除する決定を下したため。 3. 安定した財政基盤を築くために地租を主軸としたが、産業の発展に伴い他の税収が増えたため。 4. 江戸時代からの年貢の仕組みを維持した結果、都市部の人口増加に対応できなくなったため
-
- 問3 明治政府が発足直後に示した「五箇条の御誓文」の原文において、「官武一途庶民二至ル迄各其志ヲ遂ゲ人心ヲシテ倦マザラシメンコトヲ要ス」という一節があります。この一文が目指した社会のあり方について、最も適切な説明を選択してください。 (2018年 佐賀県公立入試 類似)
1. 江戸時代の身分制度を厳格に維持し、武士が政治を独占し続けること 2. 役人や武士だけでなく、庶民もそれぞれの志を遂げられるようにすること 3. 旧来の慣習をすべて維持し、急激な社会の変化を避けること 4. 徳川家の政治的影響力を完全に排除し、有力な藩だけで政治を行うこと
-
- 問4 1889年に公布された大日本帝国憲法の草案を作成するにあたり、中心的な役割を果たした人物と、彼が最も参考にした国の憲法の組み合わせとして適切なものを選択してください。 (2026年 青森県公立入試 類似)
1. 大隈重信がイギリスの憲法を参考にした 2. 板垣退助がフランスの憲法を参考にした 3. 伊藤博文がドイツ（プロイセン）の憲法を参考にした 4. 木戸孝允がアメリカの憲法を参考にした
-
- 問5 明治時代初期の日本において、政府が「富国強兵」や「殖産興業」といった政策を強力に推進し、近代化を急いだ理由として最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 長野県公立入試 類似)
1. 欧米列強に対抗できる国力をつけ、独立を維持し植民地化を避けるため 2. 白村江の戦い以来続いている伝統的な防衛体制を現代化するため 3. 鎖国体制をより強固なものにし、外国の影響を一切排除するため 4. 冷戦下の国際秩序において、周辺諸国との軍事バランスを保つため
-
- 問6 明治政府が実施した地租改正において、それまでの江戸時代の年貢の納め方と比較して、税の基準と納入方法がどのように変更されたか、最も適切なものを選びなさい。 (2026年 福岡県公立入試 類似)
1. 土地の価格を基準とし、現金で納めるように変更された。 2. 収穫高を基準とし、米で納めるように変更された。 3. 土地の面積を基準とし、米で納めるように変更された。 4. 収穫高を基準とし、現金で納めるように変更された。
-
- 問7 明治初期から中期にかけての政治的な動きについて、1868年の新政府の方針発布から、その後の政府内の対立、そして政党の結成に至るまでを時系列で正しく並べたものはどれですか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
1. 五箇条の御誓文の発布 → 征韓論をめぐる政府内の対立 → 自由党の結成 2. 五箇条の御誓文の発布 → 自由党の結成 → 征韓論をめぐる政府内の対立 3. 自由党の結成 → 五箇条の御誓文の発布 → 征韓論をめぐる政府内の対立 4. 征韓論をめぐる政府内の対立 → 五箇条の御誓文の発布 → 自由党の結成
-
- 問8 明治政府が地租改正において、税の納め方を「米」から「現金」に変更し、基準を「収穫量」ではなく「地価」とした最大の理由は何ですか。 (2026年 神奈川県公立入試 類似)
1. 徴兵令の実施に伴い、農民に武器を購入する資金を準備させるため。 2. 欧米諸国からの要求に応じ、輸用の米を政府が直接管理しやすくするため。 3. 天候や米の価格変動に左右されず、政府が安定した予算を立てられるようにするため。 4. 農村での貨幣経済の普及を遅らせ、伝統的な農業形態を維持させるため。
-
- 問9 明治政府が「殖産興業」政策の一環として、1872年に群馬県に設置した官営模範工場の名称を次の中から選びなさい。なお、この工場は最新の西洋技術を導入し、日本の主要な輸出品であった製品の品質向上を目指して作られたものです。 (2023年 山口県公立入試 類似)
1. 富岡製糸場 2. 八幡製鉄所 3. 足尾銅山 4. 長崎造船所
-
- 問10 明治政府が地租改正において、税の基準を「収穫量」から「地価」へ、納入方法を「米」から「現金」へと変更した最大の理由は何ですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
1. 豊作や不作などの天候に左右されず、政府が安定した収入を得られるようにするため。 2. 江戸時代の徴税制度をそのまま引き継ぐことで、農村の混乱を避けるため。 3. 現金の流通を抑えることで、インフレーションを防止し物価を安定させるため。 4. 農民の税負担を大幅に減らし、自由な経済活動を促進するため。
-
- 問11 明治維新が行われた後の1868年から1880年までの期間、日本は近代国家としての基盤を整えるためにさまざまな改革を短期間で進めました。この期間の出来事として誤っているものはどれですか。 (2020年 鳥取県公立入試 類似)
1. 内閣制度が創設され、伊藤博文が初代総理大臣に就任した。 2. 新橋と横浜の間で、日本初の鉄道が開通した。 3. 満20歳になった男子に兵役の義務を課す「徴兵令」が布告された。 4. 6歳以上の男女が小学校で教育を受けることを義務づける「学制」が公布された。
-
- 問12 明治政府が地租改正を行い、税の基準をそれまでの「収穫量」から「地価」に変更した最大の目的は何ですか。 (2021年 岐阜県公立入試 類似)
1. 土地の売買を禁止し、すべての土地を政府の直接管理下に置くため 2. 農民の税負担を大幅に軽減し、生活を安定させるため 3. 江戸時代からの慣習であった物納を継続し、米の流通を守るため 4. 豊凶にかかわらず、政府が安定した税収を得られるようにするため
-
- 問13 明治初期の統計資料において、日本の総人口が約3,313万人であったことが記録された1872年の戸籍編纂と、その翌年に出された法令の関係について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2016年 岩手県公立入試 類似)
1. 戸籍に登録された全国の男子のうち、一定の納税額を満たす者だけに軍事訓練への参加を義務づけた。 2. 戸籍によって武士の家系を特定することで、旧来の武士階級のみを対象とした近代的な志願兵制度を確立した。 3. 人口調査の結果に基づき、食糧不足を解消するために満20歳以上の男女を海外へ送る動労動員を開始した。 4. 戸籍によって対象者を把握することで、身分に関わらず満20歳になった男子に兵役の義務を課すことが可能になった。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 文明開化	明治政府は欧米諸国に対抗できる近代国家をつくるため、西洋の進んだ技術や制度だけでなく、文化や生活様式も積極的に取り入れました。これにより、建築・衣服・食事といった人々の日常生活が急速に西洋化しました。こうした現象は、当時の知識人である福沢諭吉らが紹介した西洋思想の影響もあり、広く社会に浸透しました。
問2	答え 3 安定した財政基盤を築くために地租を主軸としたが、産業の発展に伴い他の税収が増えたため。	明治政府は発足直後、近代化政策を推進するための莫大な資金を必要としていました。そのため、最も確実に大きな財源であった土地に着目し、地租改正によって安定した現金収入を確保しました。その後、日本の近代化が進み、商業や工業が発展するにつれて、酒税や所得税といった他の税収が増加したため、政府の総収入における地租の割合は相対的に低くなっていきました。
問3	答え 2 役人や武士だけでなく、庶民もそれぞれの志を遂げられるようにすること	この記述は、身分に関わらずすべての国民が意欲を持って活動できる社会を目指したものです。江戸時代の固定的な身分制度を打破し、国民の力を結集して近代化を進めようとする意図があり、後の四民平等などの改革につながる考え方が示されています。
問4	答え 3 伊藤博文がドイツ（プロイセン）の憲法を参考にした	初代内閣総理大臣を務めた伊藤博文は、君主権の強いドイツ（プロイセン）の憲法を調査・研究し、日本の国情に合わせた憲法草案を作成しました。自由民権運動による憲法制定の要求が高まる中、政府は天皇主権の体制を維持するために、強力な権限を持つプロイセン式のモデルを採用しました。
問5	答え 1 欧米列強に対抗できる国力をつけ、独立を維持し植民地化を避けるため	近代の始まりにおいて、日本は欧米諸国によるアジア進出という大きな波にさらされていました。先行して植民地化された他のアジア諸国の二の舞を避けるためには、西洋の技術や制度を取り入れて国力を高め、国際的に対等な立場を築く必要がありました。この「独立の維持」という切実な目的が、日本を急速な近代化へと突き動かしました。
問6	答え 1 土地の価格を基準とし、現金で納めるように変更された。	明治政府は、政府の収入を安定させるために地租改正を行いました。江戸時代の年貢は「収穫高」に応じた「物納（米など）」であったため、豊作や凶作によって政府の収入が変動していましたが、土地の所有者に「地価」に応じた「現金」を納めさせる仕組みに改めることで、天候に左右されない安定した財政基盤を確立しようとしたのです。
問7	答え 1 五箇条の御誓文の発布 → 征韓論をめぐる政府内の対立 → 自由党の結成	明治政府は1868年に五箇条の御誓文を出し、広く会議を興して公論に基づき政治を行う方針を示しました。その後、1873年に武力で朝鮮に開国を迫るべきとする征韓論めぐって政府内で激しい対立が起こり、敗れた板垣退助らが下野しました。彼らは後に民権議院設立建白書を提出して自由民権運動を展開し、1881年に日本初の本格的な政党である自由党を結成しました。
問8	答え 3 天候や米の価格変動に左右されず、政府が安定した予算を立てられるようにするため。	江戸時代の年貢（米納）は、その年の収穫量や米の市場価格によって政府の収入が大きく変動するという欠点がありました。近代化を進める明治政府にとって、軍隊の整備や産業の育成（殖産興業）には計画的な予算編成が不可欠でした。そのため、土地の価値（地価）に基づいた一定額の現金を徴収することで、作柄に関わらず毎年決まった額の税収を確保できる仕組みを整えたのです。これが地租改正の最も重要な目的でした。
問9	答え 1 富岡製糸場	明治政府は、欧米諸国に対抗できる国力をつけるために産業を育成する「殖産興業」を推進しました。当時、生糸は日本の輸出額の多くを占める重要な品目でしたが、品質のばらつきが課題でした。そこで、フランスの技術を取り入れた模範的な工場を国営で設立し、全国にその技術を普及させることを目的としました。
問10	答え 1 豊作や不作などの天候に左右されず、政府が安定した収入を得られるようにするため。	江戸時代の年貢は収穫量に応じて変動したため、政府の収入が天候に左右されて不安定でした。地租改正では、土地の価値である地価を固定し、それを基準に現金で納めさせることで、政府はあらかじめ決まった額の税収を確実に得ることができるようになりました。
問11	答え 1 内閣制度が創設され、伊藤博文が初代総理大臣に就任した。	明治初期の社会改革では、1872年の学制公布、1873年の徴兵令布告、1872年の鉄道開通などが相次いで行われ、近代化の基盤が作られました。一方、内閣制度の創設は1885年であり、大日本帝国憲法の発布（1889年）に向けた政治体制の整備が進む、より後の時期の出来事です。
問12	答え 4 豊凶にかかわらず、政府が安定した税収を得られるようにするため	収穫量を基準とする従来の制度では、不作の年に政府の収入が激減し、近代国家の建設に必要な予算が立てにくいという課題がありました。税率を土地の価格（地価）に対して固定し、現金で納めさせることで、政府は毎年の収入を一定に保ち、安定した国家予算を確保しようとしたのです。
問13	答え 4 戸籍によって対象者を把握することで、身分に関わらず満20歳になった男子に兵役の義務を課すことが可能になった。	それまでの江戸時代は武士が戦いを担っていましたが、明治政府は国民皆兵（国民全員が兵士になること）を目指しました。1872年の戸籍編纂によって全国の国民一人ひとりの年齢や居住地が明確になったことで、翌年に発布された法令に基づき、公平に兵役を割り当てることが可能になりました。これは「四民平等」の考え方を軍事面で適用したものであります。